



# 避難訓練

阪神淡路大震災から27年、東日本大震災から11年が経ちました。さらに、台風や豪雨等の自然災害で甚大な被害を受けた地域がたくさんあります。自然災害はどんなに備えをしても、完全に防ぐことはできません。でも、さまざまな準備をすることで、命や生活を守ることができるはずです。幼稚園では計画的に避難訓練を実施しています。

幼稚園の避難訓練では「基本的な考え方」と「行動」を学びます。この基本の上に「状況判断」が必要になってきます。避難訓練の時には必ず子ども達に「自分で考えてしっかりと自分の命を守ることを」指導しています。訓練の時には、どの子達もしっかり落ち着いてその場にふさわしい行動をとることができていました。

「お」・・・おさない  
 「は」・・・はしらない  
 「し」・・・しゃべらない  
 「も」・・・もどらない

ご家庭でも確かめてみてください。

「ダンゴムシ」のポーズ

いつ「いざ」という時がきても大丈夫なよう、備えさせていきたいものです。

# 命の教育



長い人生の中で、これ程無心に松ぼっくりと戯れる時間は、今この時期だけでしょう。

子ども達は五感すべてを駆使して自然と触れ合っています。

生まれてまだ数年しか経っていない子ども達。語彙の量も思考形態も大人とは比べものにならないくらい少なく狭い段階です。

その分、視覚や嗅覚、触覚を存分に使って、日々体験を積み重ねています。

「命の尊さ」は教え込んでも身につくものではなく、自身の体験で培われたものの中から芽生え、気づいていくものです。命の尊さに気づくことは、「相手を思いやる」気持ちとリンクしています。

命の尊さを知り、思いやりの気持ちが溢れる人に育ててほしいと願って指導しているところです。



# かつこうが鳴いたので 種をまく時期ですね

かつこう。漢字で書くと郭公。

さびれた様子を表す「閑古鳥が鳴く」の閑古鳥とはカッコウのこと。古来、日本人はカッコウの鳴き声に物寂しさを感じていたようです。松尾芭蕉の句にも「憂きわれをさびしがらせよ閑古鳥」(嵯峨

日記)というものがあります。十勝に住んでいると「かつこうが鳴いたら種をまく時期」という「夏告げ鳥」という感覚。園の周りに住んでいるかつこうも、先日元気に鳴いておりました。

避難訓練や森散策、いも植えと「命」に関わる活動が多い週となりました。非常事態宣言下、行事など制限が多い中ですが、こういう時だからできる、こういう時こそ大切にしたい教育を進めていきたいと考えているところです。



## 立ち上がってしまう 食事中に

先日、私の友人が「孫がご飯を食べている時に落ち着かなくて、立ち上がってしまうんだけど・・・」という話をしていました。

考えられる理由は以下4つ。

- ①いろいろなものが目に入ってしまう
- ②注意している言葉があいまい
- ③時間を決めていない
- ④そもそもお腹が空いていない

そこで  
こんなアドバイスを!

- ①いろいろなものが目に入ってしまう  
情報の取り込みが視覚優位になってしまっているため、テーブルの上には食事以外のものは置かず、座った目線の先にも気になるものは置かない。
- ②注意している言葉があいまい  
「立たないで」→「座ろうね」／「こぼさないでね」→「お茶碗もとうね」
- ③時間を決めていない  
「ご飯の時間は○分まで。時間になったら片付けるからね。」と食べる前に伝えて、その時間になったら約束通り片付けてしまう。
- ④そもそもお腹が空いていない  
食事間際の完食は厳禁。午後3時～5時は遊びのゴールデンタイムなので、この時間にしっかり身体を動かして遊ばせるとお腹も空きます。